

DIGITAL INNOVATORS
GRAND PRIX 6

2017年9月16日(土)

慶應義塾大学三田キャンパスにて9月16日(土)本選プレゼンテーション開催

《最優秀賞》は筑波大学のバリスタブラックが受賞

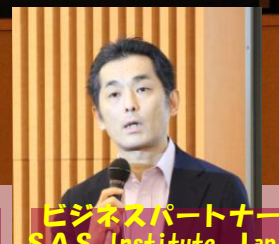
「ペイジアンネットワークに基づいた選手個人ファンクラブ型アプリの提案と分析」



村井審査員長



審査中の先生方

《最優秀賞》
筑波大学
バリスタブラックビジネスパートナー
SAS Institute Japan
山下審査員

2017年9月16日(土)午後、慶應義塾大学三田キャンパスにて慶應義塾大学SFC研究所データビジネス創造・ラボ主催、SAS Institute Japan 株式会社をビジネスパートナーに《第6回データビジネス創造コンテスト》を開催しました。

今回は他に、データスタジアム株式会社、株式会社ビデオリサーチ、アクセンチュア株式会社、株式会社ブレインパッド、NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社、株式会社電通が協力、また経済産業省、総務省統計局、応用統計学会、国立研究開発法人 科学技術振興機構、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所、(一社)情報処理学会 情報処理教育委員会、(一社)データサイエンスティスト協会、独立行政法人 統計センター、(一社)日本情報経済社会 推進協会、(一社)日本統計学会の後援で実施されました。

今回は「スポーツ × アナリティクスによる未来創造」をテーマに、スポーツ及びスポーツ観戦に関わるデータ及びその他のデータを分析し、個人・団体・社会が活性化する施策の提案を求められています。

プロ野球やサッカーのJリーグに関するデータをデータスタジアム様やビデオリサーチ様より提供頂き、ビジネスパートナーのSAS Institute Japan がアカデミア向けに無償で提供する統計解析ソフトを活用し、データの分析を行いました。

全国の高校や大学から47チームの応募があり、エントリーに必要な書類を提出したチームが30チーム、書類審査など予選を通過したファイナリスト11チームが慶應義塾大学の三田キャンパスに参集、100名余りの参加者が見守る中、本選のプレゼンテーションが行われ、熱心な質疑応答、審査の結果、表彰が行われました。

第6回《データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

《 開会挨拶 》



最優秀賞には表彰状と黄金に輝くシャベルの他、賞金20万円が授与され、各賞賞金と副賞が授与されました。

第6回データビジネス創造コンテストのビジネスパートナーはSAS Institute Japan、会社を代表して山下審査員が開会挨拶を行いました。

SASが提供したアカデミア向けのデータ統計解析ソフトを活用した応募作品は非常にレベルが高く、最終プレゼンテーションを楽しみにしていると挨拶しました。

続いて開会挨拶を行ったのがコンテストの仕掛け人、慶應義塾大学環境情報学部長・教授の村井審査員長が登壇しました。

回を重ねるごとに実社会でそのままビジネスに活かせるようなアイデアが提案されており、今回も予選段階からエントリーされた資料を審査するたびに、レベルの高さに驚かされたと言っていました。

第6回《データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

《チーム・C I S》……………同志社大学



スポーツおよびスポーツ観戦に関わるデータを分析し、個人・団体・社会が活性化する施策を立案せよとコンテストの企画に、最初は「集客数増加を図るべき地域セグメントの特定と改善のための施策 〜ダービーの集客ポテンシャルに注目して〜」をテーマに同志社大学のチームC I Sがプレゼンテーションを行いました。

Jリーグの地域創生における役割、地域創生の観点から見たダービーの重要な役割、Jリーグにおけるダービーマッチの課題を発見、解決施策案を検討した結果、「応援バスツアー」は解決策として機能しそうであるとの結論を導き出し、東北Jリーグからの「応援バスツアー」を企画、提案しました。



発表中のチームC I Sさん



渡辺審査員から表彰状を授与

《チーム・前処理》……………立教大学



2 番目は立教大学のチーム前処理「ベイズ推定を利用した注目選手の発見」をテーマにプレゼンテーションを行いました。

1999年から10年間のニコラスケージ映画出演件数と水難事故の疑似相関を示し、セパ両リーグのチームごとにチーム平均打率と選手個人推定打率を算出、直近30打席目の打率を階層ベイズモデルにより推定しました。

2016年のデータを使いながら2017年の時点を設定して注目選手をピックアップする、さらには2018年にはリアルタイムで注目選手を発見しようという頼もしい提案が行われました。



発表中のチーム前処理さん



渡辺審査員から表彰状を授与

第6回《データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

《チーム・Statistical Analyzing Society》……慶應義塾大学



3番目は、慶應義塾大学のチーム Statistical Analyzing Society『カープ女子』再現戦略～他球団の新規女性ファン獲得のための新提案～をテーマに発表しました。

日本のプロ野球の現状はファンの減少、スポーツ産業は衰退の一途。

そんな中ファンを増やしているのが広島カープ、現地に乘込み、なぜファンが増えているのかを調査しました。

話題の「カープ女子」の存在、このコンセプトを他球団に展開して新規女性ファンを増やそうと、ライトなファンは何に関心を持っているかコンジョイント分析、提案を行いました。



Preferred Network の丸山審査員から《審査員特別賞》を授与

《チーム・バリスタブラック》……筑波大学



4番目は筑波大学のチーム・バリスタブラック「ベイジアンネットワークに基づいた選手個人ファンクラブ型アプリの提案と分析～プロ野球選手の非野球関連情報に着目したアプローチ～」がテーマでした。

野球やサッカーに現在は興味が無い人に持続的に関心を持ってもらえるような施策を考えようと取り組みました。

テレビでのプロ野球観戦が直接観戦につながり実際にスポーツを行うことにつながると分析、プロ野球のテレビ観戦が結果的にサッカーの観戦にも影響すると提案しました。

チームバリスタブラックの発表資料は審査員に衝撃を与えたようで、見事に《最優秀賞》を受賞しました。



村井審査員長から《最優秀賞》表彰状と賞金と黄金シャベル

第6回《データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

《チーム・佐藤50%》……………会津大学大学院



5 番目は佐藤 50 % という奇抜なチーム「スポーツファンが日本を救う!」、ファンでは無い人をにわかファンに、にわかファンを正規ファンにしようと、観客動員率と視聴率を分析し、ファン減少に歯止めをかけると同時に、より熱狂的なファンを増やし、日本を元気にしようという提案でした。

プロ野球がサッカーの 2.5 倍という観客動員数の違いから野球の方が社会に対する影響力も大きいと判断、東京オリンピックでの野球復活を機にプロ野球ファンをテコ入れしようと提案しました。



発表中のチーム佐藤 50 %



渡辺審査員から表彰状を授与

《チーム・O2・O3》……………慶應義塾大学



6 番目は「アクセス・チケット価格・SNSから考える Jリーグ新規ファン獲得施策」をテーマにチーム・O2・O3 がプレゼンテーションを行いました。

プロ野球もサッカーも観客動員数の減少傾向は同じですが、減少幅はサッカーの方が小さいことから、3大都市圏のサッカーの試合に SNS・チケット価格・アクセスの面から付加価値を加えてライト層のファンの獲得に向けて取組もうと考えました。

熱心なリピーターも増えていることから、さらにリピーターを増やすにはどうすれば良いのか、地元の試合・ホームゲームに足を運んでもらうにはどうすれば良いのかについて、具体的な提案を行いました。



発表中の O2・O3 の皆さん



渡辺審査員から表彰状を授与

第6回《データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

《チーム・少年時代》……東京工業大学・慶應義塾大学



7番目は東京工業大学と慶應義塾大学連携のチーム・少年時代、「Jリーグクラブチームによる雇用創出」をテーマにプレゼンテーションを行いました。

地方から首都圏への人口移動が続く中、若者にその傾向が高いのは地方での就労機会が少ないことが一因、そこでJリーグの集客状況を分析するとクラブ毎にバラツキがあり、地方のクラブでの雇用機会を増やすことが地域活性化と観客動員に効果があると指摘しました。

雇用機会を増やし、プラスのスパイラルを回すことで集客効果も固めようと提案しました。



SAS Institute Japanの山下審査員から《SAS賞》を授与

《チーム・STEMの王女さま！》……慶應義塾・早稲田・津田塾



8番目の「STEMの王女さま！」は慶應義塾大学、早稲田大学、津田塾大学が連携したチーム、テーマは「スポーツ観戦を用いた、婚活ビジネスのご提案」でした。

結婚したいが機会が無いため結婚できない若者が増えている実情から、サッカー観戦を一つの機会として合コンを開催、出会いの機会を演出しようという提案を行いました。

若者が集うサッカー観戦に付加価値を加え、合コンを提供している企業のサービスが一層の婚活の機会を増やすことができ、同時に観客動員にも貢献できるアイデアをプレゼンテーションしました。



データスタジアムの久永審査員から入賞の表彰状を授与

第6回《データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

《チーム・ひょっとこ》……長野・屋代高校



9 番目は第 1 回コンテスト《最優秀賞》受賞校、毎回挑戦している長野の屋代高校のチームひょっとこ、『「スポチャレ」運動が苦手な子どもを減らせ!』をテーマにプレゼンテーションを行いました。

スポーツは自分で楽しむ人と無関心な人に大別でき、無関心な人はなぜ運動が嫌いになったのか、10代から60代のスポーツ嫌いの人たちがなぜ嫌いになったのか原因を分析、その人たちにスポーツに関心を持ち、観戦のために足を運んでももらえれば将来的にスポーツ好きを増やすことができると発表しました。



総務省統計局の柿原審査員から《高校生部門賞》を授与

《チーム・TKZ4》……実践女子大学



10 番目は実践女子大学のチーム・TKZ4、女性4人が「盛り上げよう野球! “女子たび応援ツアー”」をテーマに発表しました。

野球の観客動員数を見ると下降気味、もっと野球を盛り上げたいとデータを分析すると「スポーツは勝つことで盛り上がる」FIFA女子ワールドカップで“なでしこJapan”が優勝、旋風を巻き起こした事例を見ても明白、そこで野球のビジターゲームにツアーを組み、動員することで活性化させ、結果的にプロ野球の観客動員数を増やすことができるとプレゼンテーションを行い《優秀賞》を授与されました。



アクセンチュアの工藤審査員から《優秀賞》を授与

第6回《データビジネス創造コンテスト》プレゼンテーション

《チーム・NEXTreme》……桐蔭学園中等教育学校



最後の11番目は桐蔭学園中等教育学部のチーム・NEXTreme。

日本の国民的スポーツと言えばテレビ中継される1位野球、2位が相撲、3位サッカー…と言うのが実情、しかしそれらも漸減傾向にあることから、日本には無いが世界的に見て男女差が無く、誰にでも楽しめるスポーツは無いか調査、世界的には人気のスポーツ“クリケット”に着眼しました。

そこで慶應義塾大学のクリケットクラブを取材、試合途中でお茶とお菓子を楽しむティータイムを知って俄然ファンに、日本の魅力を活かした“JAPAN Cricket”でクリケット文化の創造をと発表しました。



NTTコム・オンライン・マーケティング・ソリューションの塚本審査員から《未来創造賞》が授与されましたが、持ち切れず手を借りました

《第6回「データビジネス創造コンテスト」プレゼンテーション》質疑応答風景



真剣な表情で審査をされる先生方……厳しい質問も飛び交いました



本番終了後は別室で最終的な審査を重ね、優秀チームを選びました



第6回《データビジネス創造コンテスト》審査時間中に企業紹介

《ビジネスパートナー》SAS Institute Japan



第6回データビジネス創造コンテストではSAS Institute Japan がビジネスパートナーを務め、アカデミア向けのデータ統計解析ソフトを提供しました。

審査時間を使い、多くの企業で統計解析に導入されているソフトウェアなどを中心に、同社の竹内マネージャーが企業紹介を行いました。

《スポーツデータ提供企業》データスタジアム



今回のコンテストでは株式会社ビデオリサーチとデータスタジアム株式会社の2社からプロ野球、サッカー、ゴルフ、卓球などのデータを提供頂きました。

その1社データスタジアムのナレッジ開発チームの加藤様より、同社の企業紹介、提供データなどの収集・配信などのサービス紹介が行われました。

第6回《データビジネス創造コンテスト》表彰式

《審査員特別賞》チームStatistical Analyzing Society



《未来創造賞》チーム・NEXTreme



《SAS賞》チーム・少年時代



《高校生部門賞》チーム・ひょっこ



《優秀賞》実践女子大学のチーム・TKZ4



優秀賞
10万円
★★★★

第6回《データビジネス創造コンテスト》…最優秀賞



村井審査員長《最優秀賞》発表



村井審査員長から《最優秀賞》の表彰状と賞金20万円が授与されました



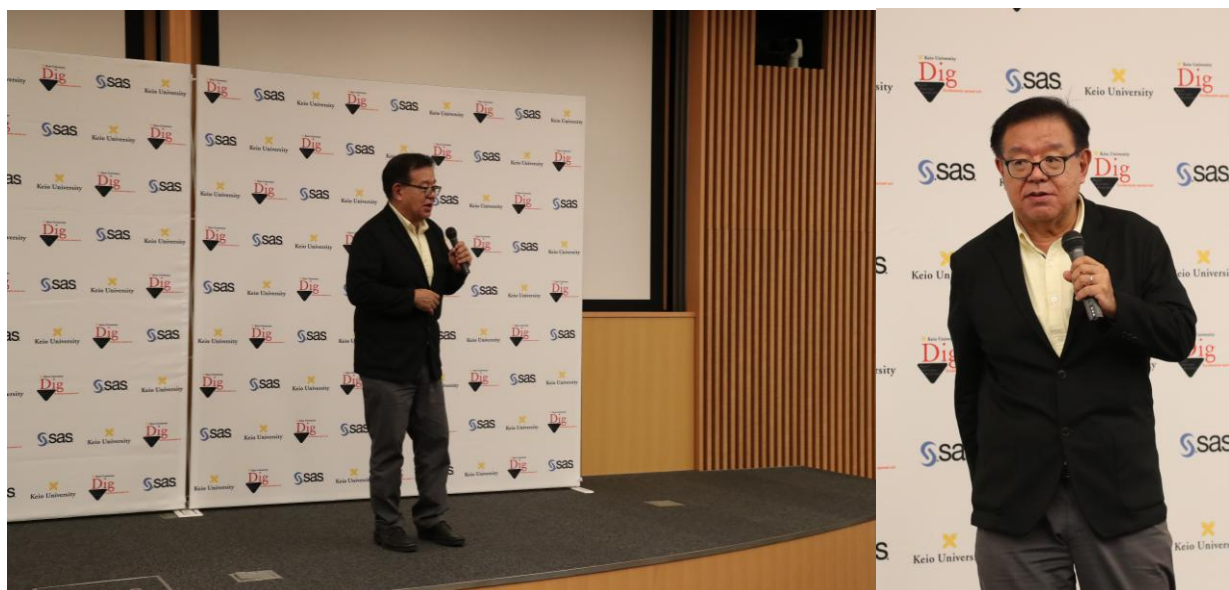
《最優秀賞》の黄金のシャベル
このシャベル、重いから気を付けてね
オー……と、と、と、重い〜と

《最優秀賞》筑波大学のチーム・パリスタブラック



最優秀賞おめでとうございます……審査員全員一致
具体性があるって今すぐにでも事業化できそうですね！

第6回《データビジネス創造コンテスト》…閉会挨拶



閉会の挨拶に立った村井審査員長、これまでは次回《データビジネス創造コンテスト》のテーマなどについて説明し、ビジネスパートナー企業を紹介して、提供頂く情報などについての説明を行ってきましたが、過去数回のコンテスト開催により、一緒に取組みたいというオファーが多数寄せられたことから、今回は選定が追いついていないと紹介しました。

第2回アクセンチュア、第3回ブレインパッド、第4回マイクロソフト、第5回アクセンチュア、第6回S A S Insitute Japan の各社にご協力頂き、開催してきましたが、今回はいろいろな企業からオファーを頂き、どちらにお願いするか、何をテーマにするかなどを至急検討し、近々ホームページを通じて発表したいと閉会の挨拶を行いました。

閉会挨拶終了後の記念撮影



コンテストが終わり、皆さんずいぶんリラックスしてますね

第6回《データビジネス創造コンテスト》…記念撮影



超大型台風が九州接近、関東地方も午後から雨との予報、スタート前に無事撮影



コンテスト終了後の記念撮影ではこんなに余裕……

第6回《データビジネス創造コンテスト》オマケの記念撮影



村井審査員長を囲んで慶應義塾大学や早稲田大学、津田塾大学の発表者の皆さん



村井審査員長と一緒に実践女子大学の皆さん



桐蔭学園の発表者さん



慶應義塾大学の Statistical Analyzing Society の皆さん



常連の屋代高校の皆さん